# 人に着目した応用心理学：交通心理学の場合

松浦 常夫
（実践女子大学人間社会学部）
キーワード：応用心理学、交通心理学、研究対象者

**【目的】**

応用心理学では、研究対象者である人はその分野でターゲットとする、何らかの役割や立場である人である。その点に着目して、応用心理学の特徴を考察する。

交通心理学を約４０年研究してきた著者が、その経験を基に、交通心理学を例にとって、お話したい。

応用心理学を研究する上で、研究内容や研究方法などに迷っている人の参考になれば幸いである。

**【研修内容】**

１　応用心理学における研究対象としての人

一般の心理学（認知心理学、性格心理学、学習心理学など）は、人一般（主に、成人）を対象としている。

例外的に、発達心理学は人の一生における発達をテーマとしているので、人を幼児、児童、青年、成人、高齢者といったように細分化しているが、それでも年齢ごとの細分化であって、役割や立場からの分類ではない。

応用心理学における対象は、人一般である場合もあるが、その分野に特有な人（ターゲット）であることが多い。たとえば、

・産業組織心理学　（企業の労働者、企業の管理職、工員、運転手など）
・犯罪心理学　（犯罪者、交通犯罪者、矯正施設の教育担当者など）
・スポーツ心理学　（アスリート、コーチ、監督など）
・医療・看護心理学　（患者、看護師、医師など）
・交通心理学　（運転者、自転車乗用者、歩行者、教育担当者など）

２　一般の人ではなくある役割・立場の人をターゲットにして研究することの意味

１）一般の人より具体的なターゲットを対象とするので、問題点を把握しやすい。
・社会的な面での研究目的が明らかになっている。
・研究テーマを見つけやすい。
・その解明が実用的な対策につながる。

２）一般心理学の知見や研究方法を参考にしつつ、ターゲット特有のこころと行動を研究する。
・一般心理学の知識と研究方法論の理解が必要。
・その分野での行動は比較的定型的なので、行動の分析は必須となる。
・行動（の意図）の背景となる心理的要因が主な研究対象となる。
・行動がおこなわれる環境も研究対象となる。

３）対策を意識する
・対策の人間的側面（教育など）などが研究対象となる。
・対策の効果評価手法が研究対象となる。

４）一般心理学より適用範囲は狭いが、その分野での人のこころや行動に関わる心理的概念や理論を構築する。
・一般心理学の理論の適用
・一般心理学の理論の補強と修正

５）心理学での応用分野は心理学以外の学問分野の応用分野であることが多い。そのため、学際的な研究となる。
・行動科学としての応用心理学
・隣接科学（たとえば、医学、工学、社会学、老年科学、教育学）の学習とその研究者との交流が必要。

６）ターゲットの更なる細分化（セグメンテーション）
・年齢と性別
・日本における地域差
・諸外国との比較

７）研究成果の社会への還元
・行政機関や関連団体の主催する委員会への出席
・マスコミ対応
・本の執筆

３　交通心理学（対象として、高齢運転者や高齢歩行者）を例とした上記７点についての考察

以後は大会時に発表いたします。

**【引用文献】**

松浦常夫 2005. 初心運転者の心理学. 企業開発センター.
松浦常夫 2017. 高齢ドライバーのための安全心理学. 東京大学出版会.
松浦常夫（編著）2018. シリーズ心理学と仕事 18　交通心理学. 北大路書房.
石田敏郎・松浦常夫（編著）2018. 交通心理学入門. 企業開発センター.

（まつうら つねお）